

## 第1回調査検討委員会での意見と対応

## 第1回調査検討委員会での意見と対応

日時；平成20年12月11日（木）10：00～12：00

場所；八仙閣本店 4階 雅の間

### 1. アンケート調査について

No.	意見	対応
1	・医療施設等についての設問では、集落の中に施設があるかではなく、通えるところにあるかを聞くべき。（小川委員長、吉武委員）	⇒アンケートの設問を修正した。 （集落アンケートの質問4の1）で表現を「医療施設が遠い」に修正）
2	・山間地域では、災害に対する不安があるので、安心・安全の観点も設問に加える。（北園委員）	⇒アンケート調査票に設問を追加した。 （集落アンケートの質問4の11）、12）、13）の3つの防災関連の設問を追加）
3	・集落アンケートの設問の支援者の選択肢では、団体のイメージが強い。様々な応援団が個人的な集団の形態で活動しており、団体の形は取っていない場合がある。それぞれの個人的なボランティア活動や機関等の動きも把握する必要がある。（小川委員長、吉武委員）	⇒アンケートの設問の選択肢を追加した。 （集落アンケートの質問5の4）で表現を「集落外の支援者（住民ボランティア、住民団体、企業、NPO、専門家、大学生等）の協力」を追加）

### 2. 先進事例調査について

No.	意見	対応
4	・公共サービスの充実だけではなく、住民の身近な活動や、それを支える民間の活動の中から元気を出していくストーリーを考えることも大事である。（小川委員長、山田委員）	⇒先進事例調査対象地の選定にあたっては、①活動プロセスを把握することが可能であること、②集落規模での活動を対象としていること、を条件として事例を選ぶとともに、当該事例について、住民にとって身近な活動に着目して調査を行う。
5	・元気を出していくためには、集落の外との接触、交流に着目する必要がある。その際、日帰りでの交流が可能な「中山間地域」、滞在での交流に限られる「離島」に分けて検討すべき。（小川委員長、山田委員）	⇒先進事例調査の分類整理において、ワークショップへの活用を考慮し、今年度は中山間地域の集落の先進事例を調査の対象とする。

### 3. ワークショップについて

No.	意見	対応
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象地域が1ヶ所では、今後考えられるアイデア集や事例集のバリエーションが弱くなり、またワークショップの回数が1回のみでは計画が立てられない。ワークショップで計画まで出来ても、実施されなければ、逆に地元の人々の元気を削ぐ結果になりかねないので注意が必要である。(吉武委員)</li> </ul>	<p>⇒ワークショップは3回開催することを予定している。</p> <p>⇒本調査では中山間地域の集落からワークショップ候補地を選定することとし、離島については、今後開催を検討する。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部との接触で、日帰り型（九州本土側）・滞在型（離島側）を検討することが必要である。今年のワークショップの対象地はどちらか一つでも良いが、次回のためにもう片方の準備も進めるべきである。(山田委員)</li> </ul>	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップは、その実施箇所が限定されるため、対象地域を分類した上で、今後の調査において分類別の代表的なケースについてワークショップを実施していくことで、比較検討ができるようにしていくことにも留意していくことが必要である。(小川委員長)</li> </ul>	<p>⇒今後、対象地の分類に基づいて、比較検討が行えるようにワークショップの対象地を検討する。</p>